

如来御詠

まぢかぬてまけをせつけと  
冥途を空にいつせと  
いせが空るらと

聖徳太子御返歌

いそ常人冥多の法如経の  
あそふ世に北里水を程た  
以はる糸多経ん

善光寺和讃

<p>歸命頂禮信濃<sup>きゆうてうらいしなの</sup>あま  <small>あま</small>三國無双の善光寺</p>	<p>關原<sup>せきがはら</sup>檀金の御本尊<sup>おんぼんぞん</sup>  <small>あま</small>仰て由来を尋はむ</p>	<p>東天竺<sup>とうてんじゆ</sup>の毘舍利國<sup>びしゃりこく</sup>  <small>あま</small>月蓋長者を云ふあり</p>	<p>佛の出世<sup>ぶつしゆ</sup>に逢ふがら  <small>あま</small>けんどん邪見の心よ里</p>	<p>夜に日に不善業<sup>よひふぜんごう</sup>をなす  <small>あま</small>釋尊深を慈と</p>	<p>種々<sup>しゆしゆ</sup>に方便し給へど  <small>あま</small>更に濟度の便なく</p>	<p>折しを國中れよまべて  <small>あま</small>五種の悪病流行し</p>	<p>鳥や獸にいとるまで  <small>あま</small>惱をうけて伏とをり</p>
---	---	---	--	--	--	--	--





死人しにん野の小道みち山やまふみち  
妻つまに離はなれ子こよ知ちかき  
親おや兄弟あに放はなうしなひて  
悲かなしきけふせ哀あわれな刑かぎ  
是これをひきへにぶつ佛法ほふうを  
信しん仰かうせざる報むくひをや  
些ちのせき疫やく神しん集あつりて  
互たがひにかとあるあくくに  
長者じやけん邪じや見けんのそをれをややせ  
女子によ寵してう愛あいのゆへな聖せいや  
邪じや神しんおひく乱みだれり  
悪あく病びやうとりつきのう惱らん乱らんす  
玉たま乃の麻あを推おしむらき  
哀あわれ如にはよせせひひぬ  
醫い術じゆつ祈ねん念ねんを志しるらたを  
又また母はは深ふかくくをあげきつつて  
涙なみだを共ともにしや釋か迦たい天てん懸けん

とねけね給がへや願ねがふやき  
志しめし給がへば日ひ比ひまる  
念ねん佛ぶつ申まをさふふらぎあな  
紫しう雲うん多たぶきゆこだぶつ  
来らい現げんまらくく玉たまひつ、  
照てらし給がへばとあのまふ  
病ひやう人にん多たちまち本復ふくし  
現げん當とう二に世せのたい大たい悲ひまる  
かくもた尊たふきはははがたを  
六ろく字じ乃の法み名なをこ稱せうふや  
邪じや見けんとつ角かくをを折せハて、  
月つ蓋がい長ちやう者じやのさい西さい門もんに  
觀くわん音おん勢せい量りやうとも流りゅうとをふ  
金こん色しき光こう明めうあらやくと  
娘むすめをはじめ國こく中ちゆうに  
死し多たる者はをみがへり  
利り益やくはいど非有が難たき  
長ちやう者じや乃の願ねがひを任まかせて



龍宮城りゆうぐうせうのこゑねをむ  
 目連尊者もくれんしやの神通じんつうふ  
 取寄よせ給たまひ釋迦しやくか彌陀みだに  
 光明中かうめうちゆうふおの津つ糸いとら  
 何なにれも給たまはせしは尊容そんよう  
 佛變ぶつへんふーきや云いふべやま  
 長者じやをはドめ國中こくちゆうの  
 儲民しよみんの悦よろこみぎりな  
 其そののち長者じやハ百濟さいの  
 聖明王せいめいたうとらまはま多里  
 同おなく如來にょらいも空くうとやむ  
 百濟國さいこくふうつとちて  
 利益りやくをあんの其そのふかよ  
 佛勅ぶつちよくありて我朝わがてうに  
 欽明天皇きんめいてう志しろしめす  
 十三年じゆんねんの冬ふゆのころ  
 津つの國くに難波なんばふ着つ給たまふ  
 敬感けいかん斜かたがふとずーて

内裏ないりふ安置あんちし奉刺ほうし  
 をげり尊重そんちゆうー給たまふを  
 をり屋や親子おやこの大臣しんハ  
 明暮あけくれ是これををねとて於  
 あつや後うし奏聞そうもん奉里  
 早はやをうーなひ申まをさんや  
 鍛冶かじ鑄物師いものしを呼よびつめ  
 七日七夜にちしちやの其その何なにひだ  
 鑪たふ糸いと穿うてぬきぬれど  
 火焰くわえんの中なかふ貴とうをむ  
 光明かうめう糸いとこやき尊容そんよう糸  
 さを安やすかふほーくして  
 少すこーもそんド玉たまハねバ  
 奇異きいの思おもひをまじながら  
 難波なんばの城じやう江えふ埋うたる  
 りの佛罰ぶつばつをがんぜんふ  
 報むくきと里りて大臣たいじんは  
 忽たちまち返かへ証しやうぶー何なに里りをほふ



其後推古天皇此  
 天和のねざし大宮へ  
 本多善光のなりしが  
 本國信濃へかへり道  
 ふしぎや光を放つ、  
 妙なること玄聞をむ  
 見むむとふとき三尊の  
 せんぎいくよく聞よ  
 月蓋長者百濟の  
 聖明王をさいといひ

此代七年の申の春  
 常いごの供ふ信濃より  
 三年のやぐも果て後  
 難波の城江の水中小  
 としみつしくくや  
 善光驚きふ里かへり  
 阿彌陀佛にて御在はす  
 なんとハ前生天堂の  
 聖明王をさいといひ

今ま日本信濃なる  
 生れ来り一縁ふと別  
 汝をまつこと年久し  
 其の名を稱へ聞とや  
 觀喜の涙うるべつ、  
 山坂難所を越るやた  
 如来の御眷よ善光を  
 程なく信濃へ歸列あり  
 家内よ清らものとては

伊奈の郡ふとしとつや  
 衆生濟度のりの為めふ  
 我を信濃へ守下里  
 の玉ふ聲に善光王  
 如来をせ成ひ奉り  
 勿躰たをを夜ハま多  
 せをせ給ふ其有難や  
 されや賤ははひよて  
 白とり外ふあふされは



これを臺座たいざに勸請くわんせふし  
 朝夕あさゆふ親子おやこを誼ぎとすふ  
 信心しんしんをげう申まうせども  
 民家みんかの事ことかれ恐おそれあり  
 仮かりに御堂みだうを以もつて事こと成なりて  
 うつし申まうせハ程ほども事ことを  
 亦また善光ぜんくわうの何なにむら屋やへ  
 歸かへせ世よ給たまは言ことハを  
 譬たとへ金をちりむめ志こころ  
 宮殿くうでん樓客ろうかくた里さとやてり  
 念佛ねぶつの聲こゑ乃すなはち所ところ生なず  
 止とどりかこしと此こゝ給たまへむ  
 善光ぜんくわう以もつてく有ありがたを  
 再ふたび我わが屋やに安あん置ちせり  
 此このの後のちふかた故ゆへに列れつす  
 皇極こうごく帝ていのちとく命めいを  
 う事ことと善光ぜんくわう事こととやかよ  
 水内みづうち郡ぐんは清せい淨じやう此こゝ

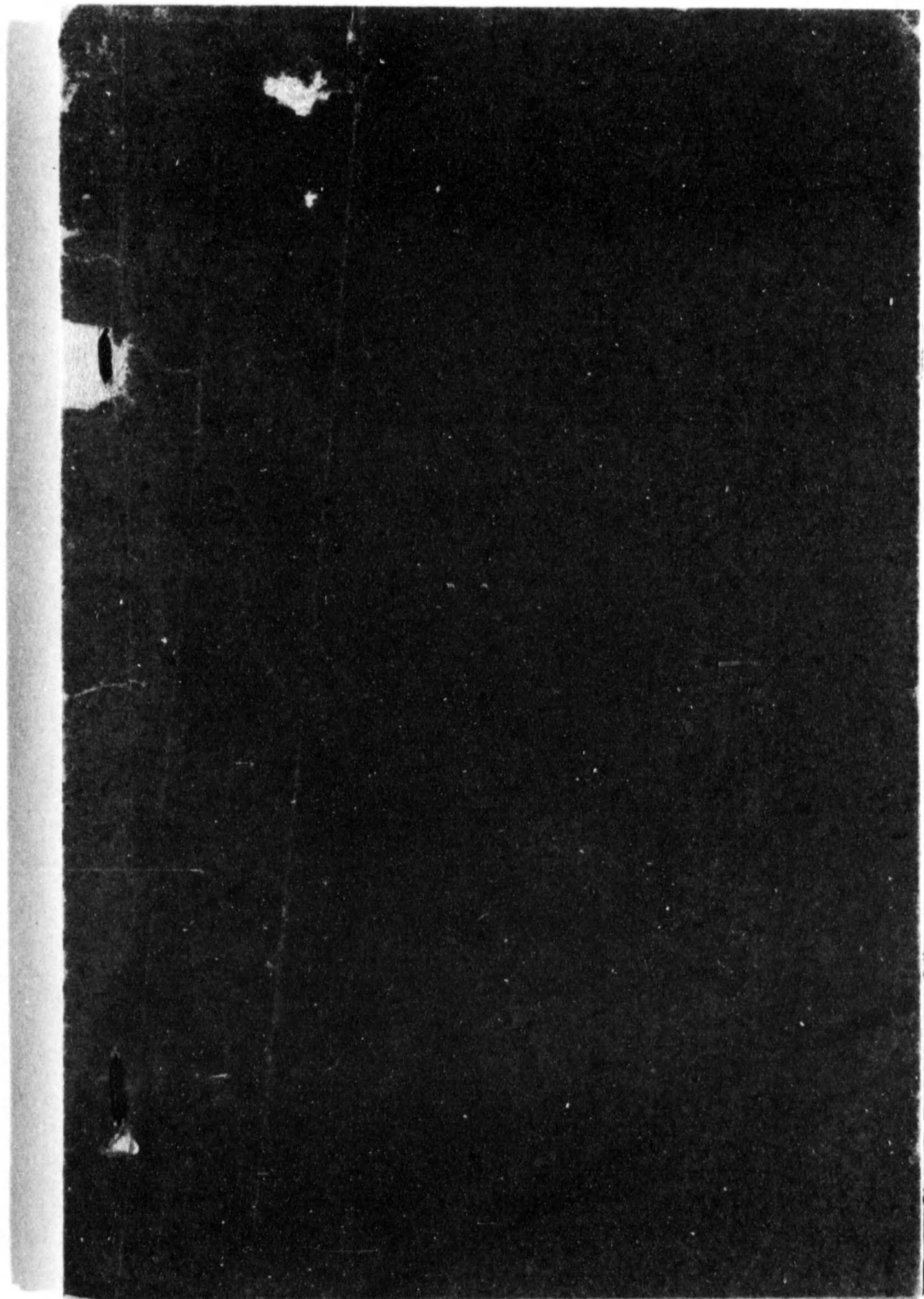
御寺みでらと建けん立りつまし〜とて  
 善光ぜんくわう寺でらと名な付つた里さと  
 亦また、以もつ尊そんき御佛みほとけの  
 生うれ逢あひ以もつ我等われら成なりむ  
 慈悲じひ圓満まんの何なにみだ佛ぶつ  
 善光ぜんくわう寺でら和わ濟げ終つひ  
 只ただ願ねがはば信しん濃のうなる  
 来迎らいかう引接いんせうまし給たまへ

長門縣ながと上水かみづ内郡うちぐん長野町ながの千六百拾六番地  
 明治廿七年四月五日印刷  
 全年全月十五日發行  
 著作印刷兼發行者 田中彌右衛門











特67

387

017110-000-1

特67-387

善光寺和讚

田中 彌右衛門／著

M27.4

ABE-0395

